

木津小学校誕生 ～明治5年5月7日～



沿革史「開校の件」

一、明治五年五月七日開校式を行った。
京都府庁より、廣瀬生存氏が、数名の
従者を連れて正装（烏帽子・直垂）し
て参列した。
校舎は奈良の町奉行所と某寺院を購
入して改築し、尚、小寺村の村会所を
買い入れ教室にした。
開校当時の教師は、句読師の澤井石
芸、習字師の木下利兵衛、算術師の
岡崎新兵衛の三氏であった。

「邑(むら)に不学の戸なく 家に不学の人
なからしめんことを期す」(明治5年8月『学
制』公布)

木津小学校は、明治5年2月ごろから開設の
準備が進められ、学制が公布される前に開校
式が行われています。当地方でいち早く開校
された学校です。この日入学したのは男子

128名、女子86名、合わせて214名であったそうです。入費不足に悩んで
いた当地域では、開校を迎えるにあたり、しばしば会合が開かれ、費用の捻出
について話し合われたようです。会合には、薬王寺や伝福寺、正覚寺などの寺
院が利用されました。

文明開化の歩みの中で、木津小学校は、まさに、地域の方々の手により誕生
したのです。

明治天皇 木津小学校へ

沿革史「大和行幸」

明治10年2月、明治天皇は奈良畝傍山御陵への
行幸に際し、木津小学校で小休されています。

御小休所は木津小学校の職員室が使用されまし
た。この建物は、元興福寺知足坊の建物で、格式高
い建て方であったということで選定されました。
この時使用された備品（花瓶・火鉢・水樋・紫檀卓）
は、昭和12年当時、木津小に保存されていたとい
うことです。

*御鳳輦…金銅の鳳凰をつけた輿・天皇の乗り物

*玉座…天皇の御座所

明治十年二月十日午後二時
今上天皇陛下(明治天皇)が、
太政大臣三條実美 内閣顧問
木戸孝允 参議伊藤博文らを
従え大和畝傍山御陵に行幸さ
れ、神武帝の霊を祭られたと
き、御鳳輦(ごほうれん)を本校
に停め、小休された。